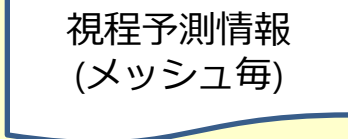
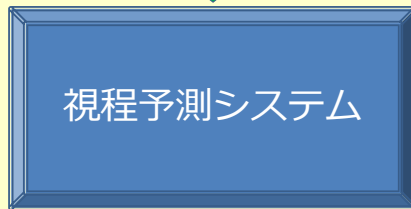
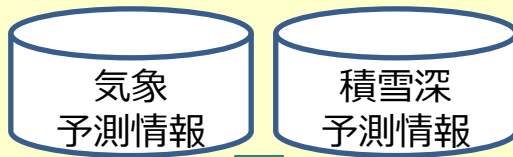


従来の予測は、

- ・ 吹雪が十分に発達していることを前提としているため、吹雪の発達程度に依存する視程障害を的確には評価できない
- ・ 降雪が吹雪の発達に及ぼす影響を直接的には考慮していない
- ・ 変動する吹雪によって生じる瞬間的な最低視程を予測することができない

→ 吹雪による視程障害を防止するために重要な瞬間的な最低視程を予測する方法を提案

発明のポイント



- ・ 様々な雪面状態に依存する吹雪の発達程度を考慮
- ・ 気温依存性を考慮
- ・ 変動する吹雪によって生じる瞬間的な最低視程を予測

効果

適用地域や適用時期に限定されることなく吹雪に伴う視程障害の予測が可能となる

想定される用途

- ・ 冬期間の道路管理や吹雪対策の効率化
- ・ 吹雪による災害防止（交通事故、道路交通のマヒ、列車の立往生等）

